

武蔵野市エネルギー地産地消プロジェクトプロポーザルに係る審査結果

平成 31 年 1 月

武蔵野市

1 選定経過

内 容		期 間
参加資格確認	実施要領等公表	平成30年10月12日
	応募書類提出期間	平成30年10月12日～11月22日
	参加資格確認結果通知	平成30年11月30日
質問回答	質問受付	平成30年10月12日～11月22日
	質問に対する回答（最終）	平成30年11月30日
提案書提出締切		平成30年12月12日
提案書のプレゼンテーション・ヒアリング		平成30年12月20日
審査委員会		平成30年12月20日
優先交渉権者選考結果通知		平成30年12月26日

2 武蔵野市エネルギー地産地消プロジェクト事業実施候補者選考に係る審査委員会

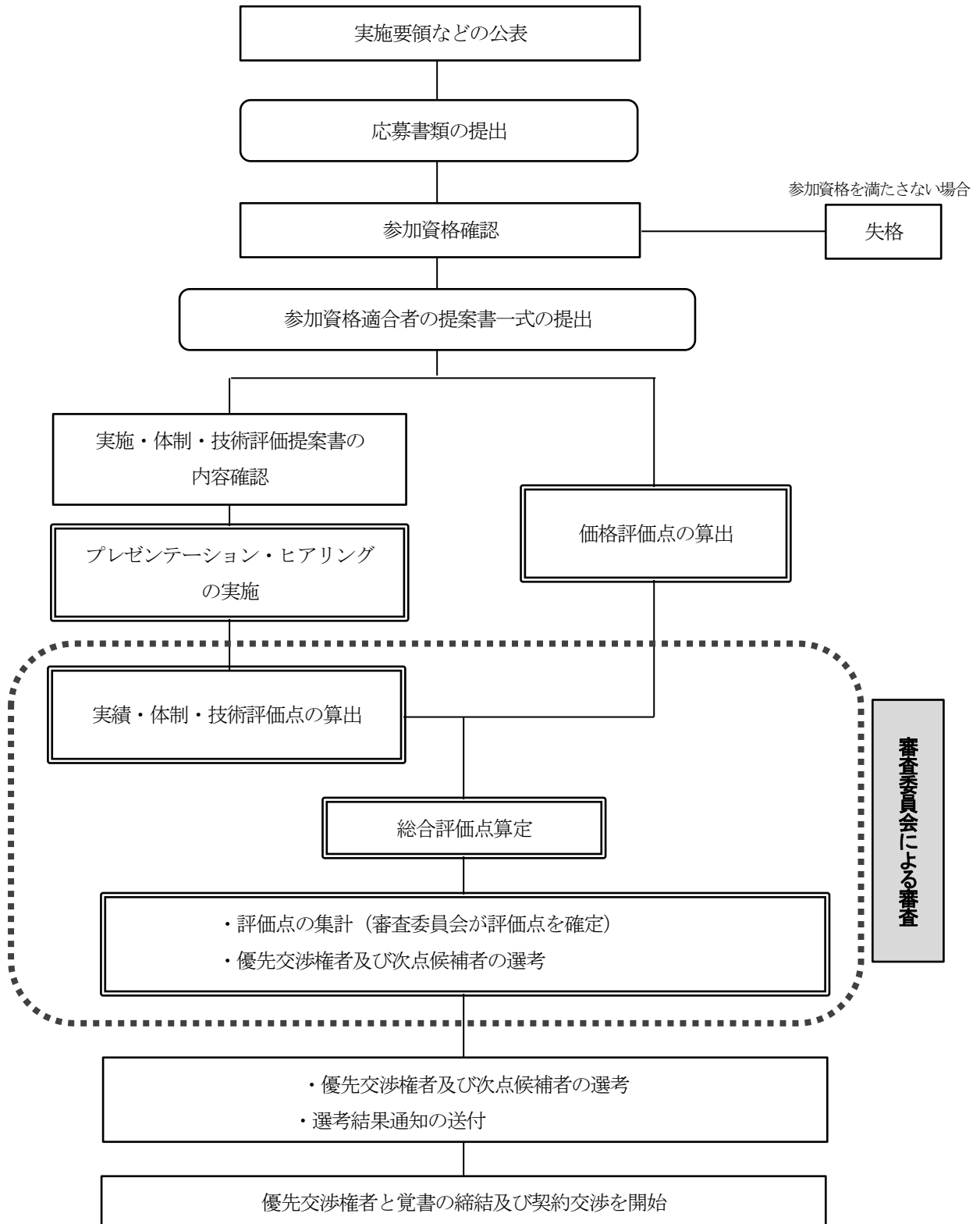
	氏 名	所 属
委員長	吉田 聡	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 准教授
副委員長	林 立也	千葉大学大学院工学研究院 創成工学専攻建築学コース 准教授
委員	伊藤 恵治	一般財団法人日本環境衛生センター 総局 資源循環低炭素化部 部長
委員	木村 浩	武蔵野市環境部長
委員	福田 浩	武蔵野市都市整備部参事

3 審査方法

(1) 優先交渉権者決定手順

優先交渉権者決定の手順は以下のとおり。

<優先交渉権者決定までの流れ>



(2) 実績・体制・技術に係る審査方法

実績、体制、技術に係る審査の評価項目・配点・採点方法は以下のとおり。

＜「実績・体制・技術に係る審査」の評価項目及び配点＞

評価分類	項目	評価の視点	評価基準	様式番号	配点		
					細目別	項目別	
Ⅰ 実績・体制	業務実績	・同種・類似の十分な実績があるか	5段階評価	I-1	50	200	
	業務実施体制の明確化	・一者または幹事企業等に積極性が見られるか ・幹事企業の本プロジェクト遂行におけるマネジメント手法に妥当性があるか ・各業務分担について明確化されているか ・各工程間で連携して事業遂行できるか ・業務履行体制の信頼性はあるか	5段階評価	I-2	100		
	地域貢献	・本プロジェクトにおける地域社会・地元企業への貢献が見られるか	5段階評価	I-3	50		
Ⅱ 技術	武蔵野クリーンセンター地産地消エネルギー面的利用拡大調査検討等業務		・本市の特徴（他の施策連携など）を踏まえた提案ができていないか ・計画策定にて、国や市場等の動向を踏まえ、先進性かつ独自性な提案が示されているか ・本プロジェクトの意義、課題の把握ができていないか ・実現可能な提案が具体的に示されているか	5段階評価	Ⅱ-1	100	500
	蓄電池システム等整備に伴う詳細設計業務・整備工事	蓄電池選定	・設計と施工を一体で行うための工夫はあるか ・蓄電池選定方法について妥当性があるか ・蓄電池稼働方法・設定・設置箇所周辺への影響などについて妥当性及び工夫は見られるか	5段階評価	Ⅱ-2	100	
		工事計画	・工事工程が実現可能な適切なスケジュールとなっているか ・工事工程を短縮するための方策が具体的に示されているか ・工事工程計画を遵守するための工夫はあるか ・工事を安全に行うための方策が具体的に示されているか	5段階評価	Ⅱ-3	100	
	ビルエネルギーマネジメントシステム整備工事		・導入BEMS選定方法について妥当性があるか ・全体のエネルギーマネジメントと連携して、BEMS導入効果を最大限発揮させる方策が具体的に示されているか	5段階評価	Ⅱ-4	100	
	総合エネルギーマネジメント等業務		・本プロジェクトの対象施設内のエネルギーマネジメントを最適化するための具体的な方策が示されているか ・効果計測測定点及び測定方法・設定について妥当性及び工夫は見られるか	5段階評価	Ⅱ-5	50	
	その他		・独自技術・知識の活用等、効果的な追加提案がされているか	5段階評価	Ⅱ-6	50	
技術評価点合計						700	

＜「実績・体制・技術に係る審査」の採点方法（５段階評価）＞

評価	評価	評価の点数化
A	当該評価項目において非常に優れている。	項目ごとの配点× 1.00
B	当該評価項目において優れている。	項目ごとの配点× 0.75
C	当該評価項目において、一定の効果が認められる提案がなされている。	項目ごとの配点× 0.50
D	当該評価項目において、ある程度の効果が認められる提案がなされている。	項目ごとの配点× 0.25
E	当該評価項目において、効果が認められない、または提案に具体性がない。	項目ごとの配点× 0.00

(3) 価格審査方法

価格審査方法は以下のとおり。

- ① 「提案価格審査」の配点は、300点とする。
- ② 「提案価格審査」の点数化の方法については、以下の算定方法とする。なお、点数化にあたっては、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで算定する。
また、「提案価格審査」の配点は、300点とする。

$\text{価格評価点} = (\text{最低提案価格} / \text{提案価格}) \times \text{配点}$

※最低提案価格：提案者から提出された提案価格のうち最低の価格

4 審査結果

(1) 総合評価結果

審査委員会において、合計点の最も高いケヤキグループを優先交渉権者として選定した。

提案事業者	実績・体制・技術評価点 (配点:700)	価格評価点 (配点:300)	合計点 (1000点)	順位
ケヤキグループ	487.5	300.0	787.5	1
ムラサキグループ	562.5	163.5	726.0	2
アサガオグループ	487.5	155.4	642.9	3
ツツジグループ	462.5	155.8	618.3	4

※ 実績・体制・技術評価点の詳細は次項のとおり。

※ 優先交渉権者となったケヤキグループの構成は次のとおりである。

ケヤキグループ	
幹事企業	NEC ネットエスアイ株式会社
構成企業	日本環境技研株式会社

(2) 実績・体制・技術評価結果

評価項目 (評価要領による)	評価視点 (評価要領による)	評価				配点 700	評価×配点			
		ムラサキ	ツツジ	アサガオ	ケキ		ムラサキ	ツツジ	アサガオ	ケキ
【I.実績・体制】 業務実績	■同種・類似の十分な実績があるか。	B	A	B	C	50	37.5	50	37.5	25
【I.実績・体制】 業務実施体制の明確化	■一者または幹事会社等に積極性が見られるか。 ■幹事企業の本プロジェクト遂行におけるマネジメント手法に 妥当性があるか。 ■各業務分担について明確化されているか。 ■各工程間で連携して事業遂行できるか。 ■業務履行体制の信頼性はあるか。	B	B	B	A	100	75	75	75	100
【I.実績・体制】 地域貢献	■本プロジェクトにおける地域社会・地元企業への貢献が見られるか。	B	B	C	C	50	37.5	37.5	25	25
【II.技術】 武蔵野クリーンセンター地産地消エネルギー面的利用拡大調査検討等業務	■本市の特徴(他の施策連携など)を踏まえた提案ができていないか。 ■計画策定にて、国や市場等の動向を踏まえ、先進性かつ独自性な提案が示されているか。 ■本プロジェクトの意義、課題の把握ができていないか。 ■実現可能な提案が具体的に示されているか。	A	B	B	B	100	100	75	75	75
【II.技術】 蓄電池システム等整備に伴う詳細設計業務及び整備工事 <蓄電池選定>	■設計と施工を一体で行うための工夫はあるか。 ■蓄電池選定方法について妥当性があるか。 ■蓄電池稼働方法・設定・設置箇所周辺への影響などについて妥当性及び工夫は見られるか。	A	C	B	B	100	100	50	75	75
【II.技術】 蓄電池システム等整備に伴う詳細設計業務及び整備工事 <工事計画>	■工事工程が実現可能な適切なスケジュールとなっているか。 ■工事工程を短縮するための方策が具体的に示されているか。 ■工事工程計画を遵守するための工夫があるか。 ■工事を安全に行うための方策が具体的に示されているか。	B	C	C	B	100	75	50	50	75
【II.技術】 ビルエネルギーマネジメントシステム整備工事	■導入BEMS 選定方法について妥当性があるか。 ■全体のエネルギーマネジメントと連携してBEMS 導入効果を 最大限発揮させる方策が具体的に示されているか。	B	C	B	C	100	75	50	75	50
【II.技術】 総合エネルギーマネジメント等業務	■本プロジェクトの対象施設内のエネルギーマネジメントを最適化するための具体的な方策が示されているか。 ■効果計測測定点及び測定方法・設定について妥当性及び工夫は見られるか。	B	B	B	C	50	37.5	37.5	37.5	25
【II.技術】 その他	■独自技術・知識の活用等、効果的な追加提案がされているか。	C	B	B	B	50	25	37.5	37.5	37.5
実績・体制・技術評価点合計						700	562.5	462.5	487.5	487.5

(3) 審査講評

審査委員会では、武蔵野市エネルギー地産地消プロジェクトプロポーザル実施要領に基づいて実施され公募型プロポーザルにおいて、参加を表明して参加資格確認を受けた4グループから提出された「実績・体制・技術提案書」及び「価格提案書」の審査を行った。

プレゼンテーションに参加した4グループの各事業者からは、本プロジェクトの趣旨・目的や市の状況を十分に理解し、類似する同種実績をもとに豊富な技術ノウハウと高い能力、熱意、創意工夫が反映され、自らの強みを活かした、大いに期待に応える良い提案が行われた。

廃棄物処理の過程で生み出される廃棄物エネルギーの地産地消における面的利用のメリットについては、社会的にはまだ評価が定まっていないが、地産地消率を向上させ、低炭素化社会の実現に向け、各グループからは先進性に溢れた、新しい価値の提案があった。

本プロジェクトにおいては、蓄電池システムの確立が重要な要素である。このため、蓄電池の性能、調達、詳細設計、施工、エネルギーマネジメントについては重要視した。また、地方自治体のプロジェクトという性質上、対象公共施設の周辺地域の住民、環境への配慮についても併せて確認した。

そして、本プロジェクトに対する意欲、これから市とパートナーシップをとり業務を進めていくことができるか、という視点を持って審査を行った。

いずれのグループも十分な実績、技術を有しており、プロジェクトの実行において大きな問題はないと評価でき、技術評価において大差とはならなかった。総合的に各グループの提案を評価した結果、「ケヤキグループ」を優先交渉権者として選定した。

各グループの提案は、遜色のない極めて優れた内容であり、短期間のうちにこのような提案をまとめていただいたことに対して、深く敬意と謝意を表したい。

今後は、市、事業者が協力して本プロジェクトに全身全霊で取り組み、全国他の地方自治体の低炭素化社会実現に向けた清掃工場を核としたスマートシティの先進的なエリアモデルとなるプロジェクトとして成功させるとともに、この経験をさらなる発展へとつなげていくことを期待する。

平成30年12月

武蔵野市エネルギー地産地消プロジェクト事業実施候補者選考に係る審査委員会 委員長 吉田 聡